



縄文時代を眺めてみよう

(紀元前25～前20世紀ごろのある場面)



次の場面を探してみよう! 次の場面は、ア～カのどれに当たるか、()に記号を入れてみよう。

- ① 穴を掘り、その上に屋根をつけた住居に住んでいます。 ()
- ② 床を高くした倉庫に、収穫した米を運んでいます。 ()
- ③ 集落の周りには、柵と濠がめぐらされています。 ()
- ④ 落とし穴を使って、イノシシを捕まえています。 ()
- ⑤ 鏡を用いて、まじないを行っています。 ()
- ⑥ 縄などで、土でできた器に文様をつけています。 ()

ヒント ①→p.28 ②→p.29 ③→p.30 ④→p.28 ⑤→p.30 ⑥→p.28

A

B

C

縄文時代



弥生時代を眺めてみよう

(紀元2～3世紀ごろのある場面)

奈良時代 p.36～37



私たちは先史時代の日本列島に来了。左は、縄文時代といわれる時代で、東北地方のある集落の様子です。右は、弥生時代といわれる時代で、九州地方のある集落の様子です。

弥生時代の集落の外側では農業が行われているね。何をにつくっているのかな。

見方・考え方

縄文時代から弥生時代に移り変わって、どのような点が変化しているでしょうか。例えば以下の点などに注目し、周りの人と話し合ってみましょう。

- ・食料の調達手段
- ・場面②のような集落の境界の様子

対話



D

E

F



弥生時代



2節の問い 日本列島ではどのようにクニができ、勢力を拡大したのだろうか。



土器は、それぞれどのように使われたのかな。



↓3 縄文土器 [左 青森県出土「深鉢形土器」東京国立博物館蔵、右 新潟県出土「火焰型土器」十日町市博物館蔵]



↑2 貝塚などから分かる縄文時代の人々の食生活

←1 縄文時代のたて穴住居での暮らし(秋)(復元) [新潟県 十日町市博物館蔵(旧博物館での展示)]

1 縄文から弥生への変化

① 人々が食べ終わった貝殻などを捨てた場所のことです。貝殻だけでなく、獣や魚の骨、石器や土器などが含まれ、当時の人々の暮らしを知ることができます。



↑4 土偶 女性の形をしているものが多いといわれています。[左 青森県出土 東京国立博物館蔵、右 青森県 八戸市 風張1遺跡出土 国宝|合掌土偶|是川縄文館蔵]

② 三内丸山遺跡をはじめとする北海道・東北の縄文遺跡群は、縄文時代における人々の生活の様子を伝える点が評価され、2021年に、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。

学習課題 縄文・弥生時代の日本列島の人々は、それぞれどのような生活をしていただろうか。

氷期が終わり、海水面が上昇すると、日本列島は大陸から切り離され、約1万年前に、ほぼ現在の姿になりました。日本列島では、気候が暖かくなったことで森林が広がり、食用となるどんぐり・くるみなどの木の实や、イノシシ・シカなどの獣が増えました。また、魚や貝も盛んにとられるようになりました。

狩りや漁・採集で得た食料の保存や煮炊きのために土器を使うようになりました。食べられる物の種類が増えたことで、食生活は豊かになりました。このころの土器は厚手で、表面に縄目の文様がつけられていることが多いので縄文土器といいます。食生活の充実で人口も増え、地面に穴を掘り屋根をつけたたて穴住居に定住するようにもなりました。住居の近くには貝塚ができました。また、自然界のあらゆる物に神が宿ると考えられ、食物が豊かに実ることなどを祈り、まじないに使うための土偶もつくられました。

青森県の三内丸山遺跡では、当時の人々が、優れた技術で大きな建物をつくり、遠い地域と物の交換を行っていたことが分かっています。こうした生活が続いた約1万数千年前から紀元前4世紀ごろまでの時期を縄文時代、またその文化を縄文文化といいます。



↑5秋の収穫の様子 戦後、静岡県登呂遺跡の発掘調査で、このような大規模な水田の遺跡が見つかり、稲作の様子が分かるようになりました。Ⓜ地公



←6弥生土器(2世紀ごろのもの) 縄文土器に比べて文様や装飾が単純で薄手の物が多くなり、貯蔵や煮炊きなどさまざまな用途に用いられました。[大阪府出土 東大阪市立郷土博物館蔵]

稲作が広まった 弥生時代

縄文時代の終わりごろ、中国や朝鮮半島などから北九州へ渡来した人々が稲作を伝え、稲作は西日本から東日本へと広まっていきました。このとき渡来した人々と縄文人が少しずつ混じり合い、後の日本人や文化が形づくられていきました。土器も縄文土器より薄くて硬く、米の保存・煮炊きに適した弥生土器が作られるようになりました。

Ⓜ p.27D2

稲作には、多くの人々が協力して作業することが必要でした。人々は木製のすきやくわで耕し、水田を広げました。収穫した稲は石包丁や鉄製の鎌で穂先を摘みとり、稲穂からもみ殻を取り去るためにはきねと臼を使いました。また、水田近くの台地に定住してムラ(集落)をつくり、たて穴住居に住みました。稲を蓄えるための高床倉庫もつくられました。

稲作とともに、青銅器や鉄器も中国や朝鮮から伝わりました。銅鐸や銅剣・銅矛などの青銅器は、豊作を神に祈る祭りの道具として使われました。青銅器より硬い鉄器は、武器や工具として用いられました。この時代を弥生時代、その文化を弥生文化といい、紀元前4世紀ごろから紀元3世紀中ごろまでの約700年間続きました。

ただし、日本列島全体に一斉に稲作が広まったわけではなく、縄文時代と変わらない、狩りや漁の生活を続けていた地域もありました。



(全長約43cm)

↑7銅鐸(中央)と表された場面(左右)[伝香川県出土 東京国立博物館蔵] 資料活用 銅鐸に描かれているのはどのような場面だろうか。



↑8荒神谷遺跡の銅剣(島根県 出雲市) 銅剣358本・銅矛16本・銅鐸6個が見つかりました。一か所に埋められた理由ははっきりしていません。[島根県教育庁埋蔵文化財調査センター提供]

近年、土器についてのお焦げ(炭化米)の科学的な分析によって、弥生時代の始まりは、これまでよりも古い紀元前10世紀と考える説も出されています。その場合には、縄文・弥生時代の区分にも影響が出る可能性があります。

確認しよう 縄文時代と弥生時代の特色を、本文からそれぞれ二つ以上書き出そう。

説明しよう 縄文時代と弥生時代では、人々の生活や社会がどのように変化したか、説明しよう。

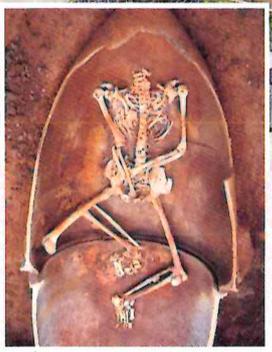
縄文	BC
弥生	AD. 1
	2
	3
	4
古墳	5
	6
飛鳥	7
奈良	8
	9
	10
平安	11
	12
	13
鎌倉	14
南北朝	15
室町	16
	17
戦国	18
	19
安土桃山	20
	21
江戸	
明治	
大正	
昭和	
平成	
令和	



←1 吉野ヶ里遺跡(復元) 大規模な集落の遺跡で、周りには柵や濠が張りめぐらされており、物見やぐらで見張りをしていたと考えられています。【佐賀県提供】



↑2 柵と濠の様子(復元)



←3 吉野ヶ里遺跡から見つかった頭の骨がない人骨 肩や腕の骨に矢が刺さった跡も残っています。【佐賀県提供】



←4 外濠 深さは約3mもあります。【佐賀県提供】

なぜ集落の周りに柵や濠がつくられたのかな。



2 ムラがまとまりクニへ

2節の問い 日本列島ではどのようにクニができ、勢力を拡大したのだろうか。

学習課題 日本列島のクニはどのようにまとまっていったのだろうか。

1~2世紀ごろの日本

建武中元2(西暦57)年、倭の奴国が、みつぎものをもってあいさつにきた。…漢の皇帝は奴の国王に印を授けた。…(2世紀後半)には、倭国は内乱などで大いに乱れ、長い間統一されなかった。
【『後漢書』東夷伝より、要約】

ムラからクニへ 稲作が盛んになると、人口が増加し水田も拡大したため、ムラとムラの間で土地や水の利用をめぐる争いが生じ、やがて周辺のムラをまとめる有力なクニ(国)が現れました。
佐賀県の吉野ヶ里遺跡では、物見やぐらを構え、柵と深い濠に囲まれた大きな集落が発掘され、矢が刺さった跡が残る人骨も見られています。これは、争いにより一つのムラが周辺のムラを併せてクニになった様子を示しています。



↑5 「漢委奴国王」と彫られた金印 江戸時代に志賀島(福岡市)で発見されました。【福岡県出土 金印「漢委奴国王」(印面・斜め) 福岡市博物館蔵】

中国の歴史書からみた倭 漢の歴史書(『漢書』)によれば、紀元前1世紀ごろ、倭(日本)は100ほどのクニ(国)に分かれていたとあります。また、1世紀半ばの歴史書(『後漢書』)には、奴国(現在の福岡市付近)の王が漢に使いを送り、皇帝から金印を与えられたと書かれています。

中国は、漢の後、魏・呉・蜀の三国時代となりました。そのうち魏の歴史書(『魏志』倭人伝)によると、3世紀に倭は小さな国に分かれ、長い間争いが続いたが、邪馬台国の卑弥呼を倭国の女王にしたところ、争いが収まったとあります。卑弥呼は、まじないによって、30ほどの諸国を治めました。また、魏に使いを送り、珍しい贈り

歴史プラス 「魏志」倭人伝からみる邪馬台国 **小地公**

「魏志」倭人伝には、邪馬台国への道筋や国内の様子が記されています。しかし、記述のままだと九州南方海上に位置するため、距離を短くする北九州説と、方位を東に改める畿内説があり、議論されています。

←6 邪馬台国の所在地論争

邪馬台国の様子

- 邪馬台国は、もともと男性の王が治めていたが、倭国が乱れ、何年も争い合うようになると、女性の卑弥呼を王とした。卑弥呼は鬼道(まじない)によって人々をうまく従えた。…卑弥呼の宮殿には、物見やぐらや柵が厳重にめぐらされ、いつも兵士が警備していた。
- 邪馬台国では、下戸(民衆)が大人(有力者)と道で会うと、草むらの中に後ざりして道を譲る。
- 卑弥呼が死んだ。直径100歩余りの大きな塚をつくり、100人余りの奴隷と一緒に埋められた。その後、男性が王となったが、人々は従わない。…卑弥呼の親族である13歳の娘、壱与が王になると、国が安定した。

〔「魏志」倭人伝より、一部要約〕

←8 黒曜石 北海道の黒曜石は、海を越えてロシアやサハリンでも使用されていました。〔北海道 千歳市 キウス9遺跡出土 北海道立埋蔵文化財センター蔵〕

←9 ヒスイ〔青森県 三内丸山遺跡出土 三内丸山遺跡センター蔵〕

ヒスイの主な原産地

←10 貝製の腕輪と指輪 〔山口県 土井ヶ浜遺跡出土 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム蔵〕

○ 黒曜石の主な原産地
● ヒスイが見つかった、縄文時代の主な遺跡
▲ 貝製の腕輪が見つかった、弥生時代の主な遺跡

↑7 日本各地に広がる縄文・弥生時代の交易 **地図帳活用**

物や王の地位を得ることによってほかの国より優位に立とうとしました。その結果、倭国全体を統治する倭王の称号と金印、銅鏡100枚を得ました。諸国には王から奴隷までの身分があり、国を治めるしくみが整えられていました。

5 **縄文・弥生時代の交易と交流** 本州が弥生時代になったころ、現在の北海道を中心とする北の地域と、沖縄を中心とする南西諸島では、狩りや漁を中心にした生活が続いていました。北海道では、シカなどの狩りや、鮭などの漁が行われていました。一方、沖縄では、サンゴ礁で漁が行われていました。

10 この時代の北と南の地域は決して孤立していたのではなく、さまざまな地域と活発に交流をしていました。沖縄や奄美のサンゴ礁でとれる巻貝は腕輪に加工され、北海道にまで運ばれたものもありました。装飾品などに使われるヒスイや、鋭く割れて狩りや物を切るために使われた黒曜石も広い地域から出土しており、交易が行われていたことが分かっています。

年	南西諸島	本州・九州・四国	北海道
前400	〔漁と畑作が中心〕の時代	縄文	〔狩りと漁が中心〕の時代
200		弥生	
紀元	〔農の支配する王の時代〕	古墳	〔オホーツク文化〕の時代
200		飛鳥	
400	〔琉球王国〕	奈良	〔アイヌ文化〕の時代
600		平安	
800	〔室町時代〕	鎌倉	〔室町時代〕
1000		南北朝	
1200	〔徳川幕府〕	室町	〔徳川幕府〕
1400		戦国	
1600	〔徳川幕府〕	安土・桃山	〔徳川幕府〕
1800		江戸	

↑11 北海道・南西諸島の歩み

確認しよう 中国に使いを送った国と、その国が中国から与えられたものを本文からそれぞれ書き出そう。

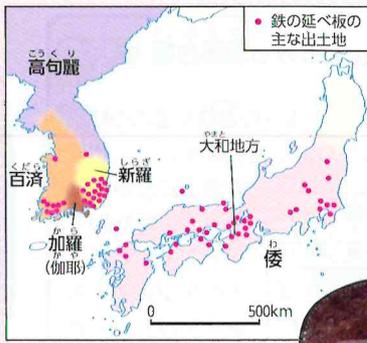
説明しよう 本文と史料にある中国の歴史書の内容から、国がまとまっている様子を説明しよう。

縄文
BC
AD. 1
弥生
2
3
4
古墳
5
6
飛鳥
7
奈良
8
9
10
平安
11
12
13
鎌倉
14
南北朝
15
室町
16
戦国
17
安土・桃山
18
江戸
19
明治
20
大正
昭和
21
平成
令和



↑1 奈良県の古墳から出土した鉄の延べ板 [東京都 宮内庁書陵部蔵]

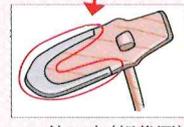
鉄はどのようなものに使われたのかな。



←2 鉄の延べ板の出土地
↓3 鉄製の農具(左) [奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵]と4 よろい(右) [熊本県 江田船山古墳出土『短甲』東京国立博物館蔵]



U字鉄刃



使い方(想像図)



(全長約47cm)



3 鉄から見える ヤマト王権

2節の問い 日本列島ではどのようにクニができ、勢力を拡大したのだろうか。

① 中国から倭王の称号を与えられた、後の大倭王を中心とする豪族たちの緩やかな連合勢力のことです。「大和朝廷」とよばれることもありませんが、「朝廷」とは政治を行う機関であり、当時は整った組織はまだなかったため、「王権」と表記しています。また、国号の「倭」や後の地域名の「大和」と区別するため、「ヤマト」と表記しています。



↑5 百舌鳥古墳群(大阪府 堺市) 大仙(大山)古墳は日本で最も大きい前方後円墳で、全長約486m、高さ約33mです。百舌鳥古墳群は古市古墳群と共に、2019年に、世界文化遺産に登録されました。 (小地公)



ヤマト王権はどのようにして各地の豪族を従えていったのだろうか。

古墳の出現

3世紀末になると、各地に古墳とよばれる、土を盛り上げてつくった大王や豪族の墓が出現しました。古墳はその見た目から、四角いものを方墳、円いものを円墳とよび、その2種類を合わせた形の前方後円墳も出現しました。古墳づくりは、多くの材料と労力を必要とする土木工事であり、富と権力をもった支配者(豪族)が各地に現れたことを示しています。以後、6世紀までの、古墳が盛んにつくられた約300年間を古墳時代といいます。

倭国と朝鮮半島の関係

朝鮮半島では、3～4世紀ごろ、高句麗が北部へ領土を広げ、南部では小国がまとまり百済と新羅が成立しました。高句麗の王によって建てられた石碑である広開土王碑には、倭国の大和地方(奈良盆地東南部)に成立したヤマト王権が、朝鮮半島南端の加羅(伽耶)地域とのつながりを強めながら、百済に協力して、高句麗や新羅と戦ったとあります。

ヤマト王権の支配と拡大

日本では弥生時代の終わりごろから、すきやくわなどに鉄の刃先を使うことが広まり、生産力が高まりました。また、武器も主に鉄製のものが使われるようになりました。しかし、当時の日本列島には鉄をつくり出す技術はまだまだなく、鉄は延べ板のような形で朝鮮半島からもたらされました。

地域史

上野三碑にみる渡来人の影響

↓6多胡碑 [高崎市教育委員会提供]



7世紀末～8世紀ごろ、渡来人の知識によって上野国(群馬県)に三つの碑が建てられました。日本語風の漢字の語順で記された山上碑、仏教による結末が記された金沢碑、新しい郡をつくったことを記念して漢文調で記された多胡碑からなる上野三碑からは、朝鮮半島を経て伝わった漢字文化や仏教文化の広がりだけでなく、中央政府の支配体制を知ることができます。

→8須恵器 朝鮮半島から登り窯を用いて高温で焼く技術が伝わり、これまでよりも丈夫な土器が生産されました。 [兵庫県出土 京都国立博物館蔵]

↓7 5世紀の東アジア 地図帳活用



国宝



(全長約91cm)

国宝

稲荷山古墳

ワ獲
カ加
タ多
ケ支
ル鹵
大王

江田船山古墳

ワ獲
カ□
タ□
ケ□
ル鹵
大王

〔国所有・文化庁保管、埼玉県立さきたま史跡の博物館提供〕

↑9江田船山古墳(熊本県 和水町)出土の鉄刀(左)と10稲荷山古墳(埼玉県 行田市)出土の鉄剣(右)

いずれも「ワカタケル大王」の文字が刻まれています。 小地公

(全長約74cm)

国を豊かにするために重要な鉄をめぐって、各地の豪族は、朝鮮半島とつながりのあったヤマト王権と結びつきを強めようとした。ヤマト王権は、豪族たちに朝鮮半島からの鉄や技術などを与える代わりに、みつぎものや兵士の動員などを義務づけました。

5 大和地方を中心に出現した前方後円墳は、4～5世紀には各地に広まってきましたが、それは、各地の豪族がヤマト王権に従うようになり、大きな墓をつくることを許されたからだと考えられています。5世紀後半に、ヤマト王権の王ワカタケルが、「大王」を名乗って、鉄刀や鉄剣を九州や関東の豪族に与えたのも、国内での結びつきを強めたいという考えからでした。

しかし、朝鮮半島での争いに敗れることもあったため、ヤマト王権でさえも安定して鉄を手に入れることはできませんでした。そのため、ヤマト王権は、南朝と北朝に分かれ対立していた中国の南朝の皇帝へたびたび使いを送り、鉄を確保するためにその力を借りて、朝鮮半島諸国に対して優位に立とうとしました。

渡来人

この時期、戦乱の多い中国や朝鮮半島から、倭国に移住してきた人々を渡来人とよびます。渡来人は、土器

(須恵器)や鉄器の製造や機織り、漢字など、毎日の生活に役立つ多くの技術を伝えました。さらに、ヤマト王権においても外交や政治、財政などで活躍しました。6世紀には、仏教や儒教を伝え、日本の人々の信仰や文化に大きな影響を与えました。

✓ 当時の日本列島で鉄が貴重だった理由を、本文から書き出そう。
 確認しよう

🗨️ ヤマト王権はどのようにして勢力を拡大していったのか、朝鮮半島との関わりから説明しよう。
 説明しよう

織文
EC
1 弥生
2
3
4 古墳
5
6
7 飛鳥
8 奈良
9
10 平安
11
12
13 鎌倉
14 南北朝
15 室町
16 戦国
17 安土桃山
18 江戸
19
20 明治
21 大正
昭和
平成
令和

アクティビティ に挑戦 **A1**

前方後円墳の役割を考察する



ワークシート

見方・考え方
前方後円墳の作成時期と時期による変化に着目しよう。

学習
課題

古代のことを知る手がかりとして有力なものが、全国に広がる前方後円墳です。前方後円墳に関する資料を読み解き、その役割を考えましょう。また、その役割が、古墳がつけられた時代の特色とどのように関連しているか、考えましょう。

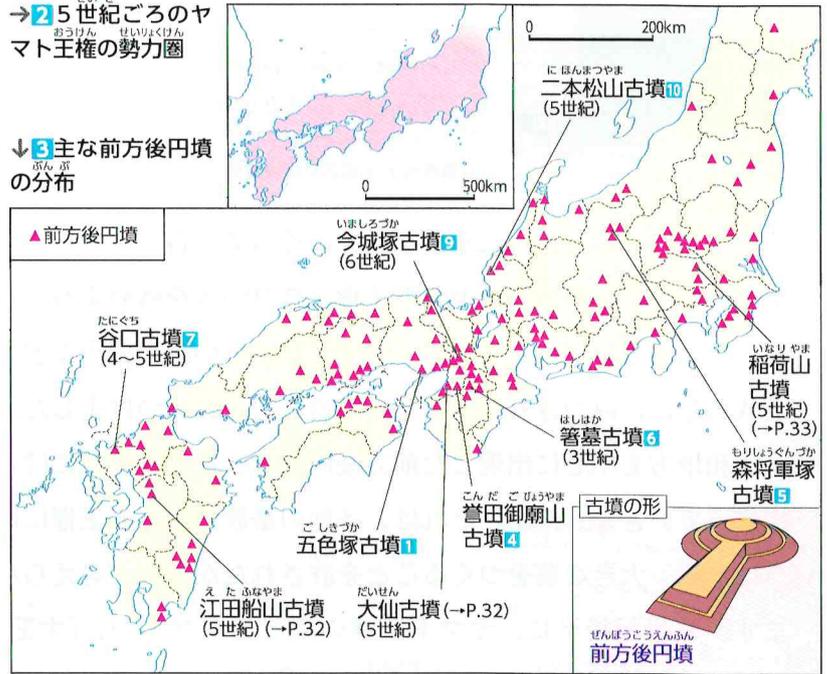
テーマ 前方後円墳には、どのような役割があったのだろうか。



年代 4～5世紀
大きさ194メートル

→2 5世紀ごろのヤマト王権の勢力圏

↓3 主な前方後円墳の分布



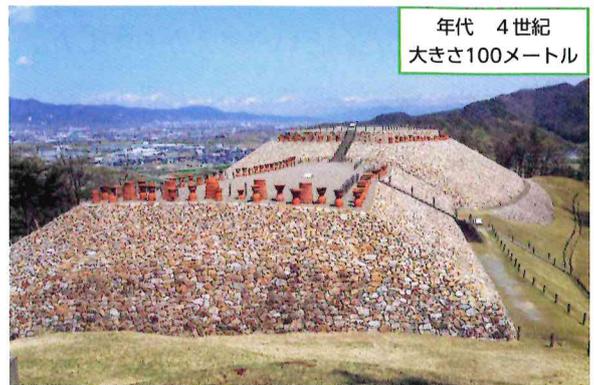
↑1 五色塚古墳(復元、兵庫県 神戸市) 近くの海を航行する船から見えるよう、海岸沿いの丘につくられました。



年代 5世紀
大きさ425メートル

↙4 菅田御廟山古墳(大阪府 羽曳野市) 横から見る大きな山のようにみえます。大仙古墳に次ぎ、全国で2番目の大きさです。

→5 森將軍塚古墳(復元、長野県千曲市) 支配した土地の人が仰ぎ見るよう、山につくられました。



年代 4世紀
大きさ100メートル

TRY 整理しよう

図1～10の資料から、前方後円墳について読み取ったことや考えたことを、右の①～④の視点に基づいて整理しよう。

	①つくられた場所	②前方後円墳の広がり	③大きさや時期の関係	④副葬品
読み取ったこと(分かったこと、特徴)				
考えたこと				
使った資料				

技能をみかく 6 複数の資料をもとに類推する

古代など、時代が古くなるほど、文字資料があまり残っていないため、**解明**されていない**歴史の謎**が多くあります。そのため、複数の資料をもとに過去のことを読み解き、**根拠**をもって類推することが必要となります。

時期	主な出来事	古墳のサイズ比較
3世紀	239 卑弥呼、魏から銅鏡を授かる 前方後円墳がつくられ始める	箸墓古墳
	古墳時代の副葬が盛んになる	前方後円墳
4世紀前期	各地で巨大古墳がつくられる ヤマト王権が形成される 武器や武具の副葬が増える	森將軍塚古墳 谷口古墳 五色塚古墳
	ヤマト王権が中国に使いを送る 稲荷山古墳出土の鉄剣がつくられる	箸田御廟山古墳 大仙古墳
5世紀中期	冠や馬具の副葬が盛んになる	今城塚古墳
	538 仏教が伝わる (529年説もある)	
6世紀後期	593 聖徳太子が摂政となる	藤ノ木古墳 (円墳)
	前方後円墳がつくられなくなる	
7世紀	607 遣隋使を派遣する	
	630 第1回遣唐使を派遣する	
	645 大化の改新	
8世紀	710 平城京に遷都する	高松塚古墳 (円墳)

↑6 古墳時代の年表

さまざまな副葬品 (死者と一緒に埋葬されたもの)

古墳前期

→7 宝飾品やまが玉 宝飾品は死者が身につけるためのものです。まが玉は、装飾に使われるほか、祭祀に使われていました。



古墳中期・後期



↑8 武人埴輪

【群馬県出土 東京国立博物館蔵】

→10 かぶと 5世紀になると、鉄でつくられた武具や馬具、農具などが副葬されました。
【二本松山古墳出土 東京国立博物館蔵】



↑9 埴輪を使った祭祀 (復元、大阪府高槻市 今城塚古墳)
古墳からは、人や家、船、馬などの形をした埴輪が出土しています。埴輪は古墳の上や周りに並べて使われました。(→p.15)



考えよう 対話

ペアになり、作成した表の内容を発表しよう。そして、前方後円墳にはどのような役割があるのかを考え、話し合おう。

前方後円墳の役割について考えたこと

話し合って気づいたこと

表現しよう

話し合いをもとに、前方後円墳の役割について、あなたの言葉で表現しよう。その際、古墳がつけられた時代の特徴も踏まえよう。